



# 寮監だより

令和8年3月22日

(公財) やまがた育英会

駒込学生会館 板橋学生会館

寮生保護者 各位

(CC:卒寮生、評議員、監事、理事各位)

## 34人の壮途を祝う ～卒寮生を送る「<sup>よせんかい</sup>予餞会」開催～

桜の花ちりぢりにしも分かれゆく 遠きひとりと君もなりなむ (釈 迢空)

令和7年度は34名が卒寮します。2月上旬からは引越し作業があわただしくなり、大きな荷物とともに寮を後にする姿を見ると一抹の寂しさを覚えます。

その卒寮生を送る伝統行事の「予餞会」が、2月1日(日)、駒込学生会館多目的ホールで開催されました。

鈴木礼子代表理事が「コロナ禍の中での学生生活で大変なことも多かったと思う。寮生活で培った大志を胸に社会に羽ばたいてほしい」とあいさつ、続いて講演会に移り、第31代防衛省事務次官 黒江哲郎氏が『防衛省勤務40年を振り返る』と題して話をいただきました。



▲理事・役員も多く出席いただいた予餞会

この中で黒江氏は、三権分立の国政の仕組みから説き起こし、米ソ冷戦期の防衛政策、天安門事件や湾岸戦争、ベルリンの壁崩壊を経て「活動する自衛隊」へ防衛政策が転換したこと、「中国、ロシア、アメリカなど新たな大国間競争の始まりの中で、平和安全法制による同盟の強化が図られてきた。また、今後の課題として人口減少社会における安全保障態勢の構築、変質した米国との関係は間合いの取り方も重要」など、安全保障政策の課題を分かりやすく解説。また「官僚の仕事に求められたものとしてPKOがある。Pはプロフェッショナリズム、Kは覚悟と気概、Oは思いやりです」。そして最後に「理想を忘れないで」と実社会に飛び出す学生にエールを送ってくださいました。



### ▲黒江 哲郎 氏

1958年 南陽市生れ

山形東高・東大法学部卒

2015年 第31代防衛省事務次官就任

予餞会に入り、卒寮生代表として2024年度男子寮長 加賀 悠希君(日大法学部4年 日大山形高卒)、同女子寮長 星野 莉那さん(専大商学部4年 酒田光陵高卒)、板橋寮代表 瀧口 英寿君(大正大文学部4年 山形南高卒)が、寮生活への感謝と社会人となる決意を述べました。そして卒寮生へ記念品贈呈として鈴木代表理事から代表の廣居千尋さん(板橋寮・中央大理工学部 長井高卒)に「yamagata-ikueikai」の文字



▲鈴木礼子代表理事から卒業生代表の  
廣居千尋さんに記念品が贈られた



▲（左から）決意を述べる加賀 悠希君、星野 莉那さん、瀧口 英寿君

のに入った高級ボールペンと前和田前寮監直筆の『壮途』～社会に旅立つ諸君へ～が手渡されました。

清野能昭業務執行理事の乾杯で懇親会に入り、黒江講師、理事・評議員などの役員も在寮生と寮OB・OGの囲むテーブルに入り、学生の話に耳を傾け、また人生の先輩としてのアドバイスをする姿も各々のテーブルで見られました。



▲清野業務執行理事の音頭で乾杯し、卒業生を  
囲んで懇談した

### 春風や闘志をいだきて丘に立つ （高浜虚子）

卒業生それぞれが胸に抱く理想に向かって邁進できるよう  
そして活躍と健勝を役員・在寮生一同お祈りしています。

## 社会人1年生の寄稿

昨年度卒業し、寮長も担った鈴木健人君が寮生活での思い出とともに今後の意気込みを荘内日報に寄稿しました。とてもいい内容で感心しましたので荘内日報社と本人の許可を得て、ここに転載します。

石井や山田事務長の話は一言も出てきませんが、「寮で過ごした4年間は人生における強固な土台となった」、「そこが単なる住まいではなく心の拠りどころであり続けている」「寮生活で学んだ人間力」などのフレーズは、寮運営を預かるものとして、大変ありがたく、新入生の入寮を前に良い学びと互いに切磋琢磨できる環境を提供できるよう気持ちを新たにしましたところ です。

2026年1月6日付け荘内日報 ▲

# 育英寮が土台縦のつながり大切に

やまがた育英会駒込学生会館元寮長  
遊佐鳥海ふるさと会理事  
鈴木健人さん



育英寮で過ごした4年間は、私の人生における強固な土台となりました。社会人として東京の荒波の中で戦っているのは、間違いない寮生活で培った精神力と仲間との絆があるからです。現在、私は寮のある駒込から2駅離れた大塚に住んでいます。卒業してなお、ふと寮に顔を出してしまうのが、故・和田豊寮監が大切にされていた「企」という精神です。右も左も分からない新人ですが、ただ業務をこなすのではなく、自ら企て、挑戦する姿勢を忘れ

は、そこが単なる住まいではなく、私の心の拠りどころであり続けているからに他なりません。先輩たちが入寮し、OBとしての立場を実感する今、改めて縦のつながりを大切にしていきたいと感じています。

また、東京での生活を経たことで、故郷・遊佐町の魅力も再発見しました。豊かな緑、澄んだ空気が、そして何より食の豊かさは誇りです。しかし、それ以上に私が価値を感じているのは、遊佐が持つ「余白」です。東京のように娯楽が与えられていないからこそ、

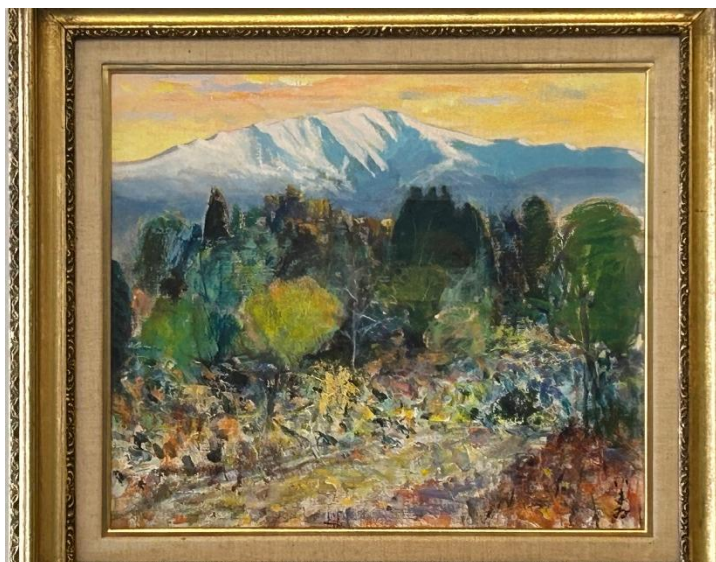
私たちは野山を駆け、自分たちでルールを作り、遊びを創り出してきました。この「何もないところから価値を生む」というクリエイティブな原体験こそが、今の私の仕事に通底しています。

私の将来の目標は、東京と遊佐の2拠点で生活し、両者をつなぐ架け橋となることです。遊佐の自然の中で子供を育て、次世代に創造のバトンを渡したい。その未来を実現するために、今は東京というフィールドで「企」の精神を胸に、社会人としての実力を磨き上げていく所存です。

（23歳、酒田光陵高、専修大卒、東京都豊島区在住）

## 「やまがた育英会」美術品シリーズ ⑧

駒込学生会館、板橋学生会館には多くの絵画や美術品が飾られています。それらをシリーズで紹介しています。



駒込学生会館 玄関前

### 錦陽月山

◇作者 今井 繁三郎

◇作品 油彩 1978年制作

◇大きさ 54cm×44cm

#### 今井 繁三郎

- ・1910年 山形県羽黒町（現鶴岡市）生まれ
- ・1927年 県立鶴岡中学校（現：致道館高校）卒業後、画家を志し上京
- ・1930年 尾口 勇に油絵の古典技法を学ぶ
- ・1945年 敗戦、東京を離れて郷里に帰り、山野を拓いて家族と共に住み、7年間ランプ生活を体験
- ・1947年 毎日新聞主催美術団体連合展を東京都美術館で開催。
- ・1956年 山形県美術連盟運営委員長に就任
- ・1979年 齋藤茂吉文化賞受賞
- ・1990年 羽黒町泉野の自宅庭に今井繁三郎美術收藏館を設立
- ・1996年 鶴岡市特別文化功績賞を受賞
- ・2001年 羽黒町名誉町民となる。
- ・2002年 逝去。享年91歳

## 海外留学（遊学）の帰国報告

令和7年度から寮生への「海外留学（遊学）支援」を試行しています。この制度を利用して今年度は13人が海外に出かけており、帰国後、直近のイベントや寮会でその成果を発表しています。2月13日（金）に開かれた駒込寮会では、4年生4人が報告をしました。その概要を簡単に紹介します。

## 何でも見てやろう ～東ヨーロッパ周遊～

國井 信之介君（早稲田大学 先進理工学部4年  
山形東高卒）

○期 間 令和7年11月19日～29日

○遊学地 ブダペスト（ハンガリー）、ウィーン  
（オーストリア）、プラハ（チェコ）

○内 容 シナゴーク、聖イシュトヴァーン大聖堂、ハンガリー国立歌劇場、ヴァイダフニャ  
ド城、ブダ城、ウィーン美術史美術館、プラハ城、スメタナホールでの音  
楽鑑賞ほか



### ○気づきと感想

交通システムはその国の個性が色濃く出る。訪問した3か国の鉄道では改札口がなく、無賃乗車をしていても分からず乗客の良識によって成り立っている。公共交通を利用する人で車内でスマホを触っている人が非常に少なく、仲間で会話したり見知らぬ人に声を掛けたり、ヨーロッパ圏の社交性の高さを感じた。

東ヨーロッパ圏の生活スタイルとして平日の夜は人通りが少なく、家庭を大事にしていた。現地の歴史的遺産や文化に触れただけでなく生活習慣など多くの学びがあり、日本や山形の良さを再認識する機会ともなった。



▲報告する國井 信之介君

## スイス5大名峰をめぐる

清野 琴弓さん（明治大学 文学部4年 山形東高卒）

○期 間 令和7年9月5日～12日

○遊学地 スイス

○内 容 レマン湖クルーズ、ハーダークーム展望台から  
ユングフラウ（4158m）、アイガー（3967m）、  
メンヒ（4110m）を鑑賞、山岳鉄道でゴルナー  
グラード展望台へ行きマッターホルン（4810  
m）を、またシャモニー村からもマッターホル  
ンとモンブランを鑑賞ほか

○目 的 憧れの地を自分の目で見ること



▲ゴルナーグラード展望台で（左が清野さん）

### ○気づきと感想

・水がきれい（街中の川はどこもエメラルドグリーン）。  
水汲み場もあちこちにあり、スイス人はマイボトルをもって



▲ライ湖に映る逆さまッターホルン

水を汲み飲んでいた。

・地産地消を積極的に

ワインがおいしく、牛肉もスイス産を名乗るには牛が食べている牧草もスイス産でなくてはならない。

・物価が高い（日本の2.5倍以上）

軽い昼食が2人で5,000円以上。スイス人の収入は日本人の4倍と言われているが、スーパーマーケットなどの店は日曜日は完全に閉店。平日も早い時間に閉まる。労働時間を短くし、生産性を上げて人生を豊かに過ごしている感じがした。

## 文化の潮を導きて ～中欧3か国の旅～

北澤 伶朗 君（明治大学 経営学部4年 山形南高卒）

○期 間 令和7年11月19日～29日

○遊学地 ブダペスト（ハンガリー）、ウィーン（オーストリア）、プラハ（チェコ）

○内 容 ブダペスト市街地探訪、ブダ城、ブダペスト歴史博物館、ウィーン美術史美術館、聖ペーター教会、シュテファン大聖堂、プラハ城、カレル橋ほか



▲寮会で発表する北澤 伶朗君

○気づきと感想

・「歴史が、現在の都市空間や人々の生活の中に意識的に組み込まれている」と強く感じた。

例えば、ブダペストやプラハでは、城や橋と言った歴史的建造物が現在も都市の中心的存在として残され、日常の景観の中に溶け込んでいる。ウィーンにおいても美術館や教会が単なる保存対象ではなく、芸術や信仰を通じて過去と現在つなぐ場所として活用されていた。

・歴史や文化は単に守る対象ではなく、社会や都市のアイデンティティを形成する重要な要素である。

・「歴史を空間として体験させる」という視点は、山形の地域づくりにも活かすことができる。例えば、史跡や街並みを単独で紹介するのではなく、歩くことで歴史の流れを体感できるルートづくりや地域の人々の語りを通じて過去と現在をつなぐ仕組みを整えることで、訪れる人の理解や印象は大きく変わる。

・自身が学んできた経営やマーケティングの視点を活かし、山形の歴史や文化を「知識」として伝えるだけでなく、「体験」として届けることにも取り組みたい。中欧3か国で感じたように、歴史が日常の中に溶け込むことで、人々の記憶に残る価値が生まれる。その考え方を山形に応用し、地域の魅力を内外に発信していくことが、今回の研修で得た学びを還元する一つの形である。



▲プラハ市街地を歩く



## ペリリュー島・バングラデシュでの遺骨収集活動

阿部 叶芽さん（上智大学 文学部4年  
鶴岡南高卒）

### ●ペリリュー島

- 活動期間 10月5日～17日（13日間）
- 活動内容 日本国大使館および州政府への表敬訪問、遺骨収集活動、現地追悼式

### ●バングラデシュ共和国


- 活動期間 11月15日～12月2日（18日間）
- 活動内容：日本国大使館・バングラデシュ外務省・チッタゴン行政府/警察・都市警察・墓地管理事務所への表敬訪問、遺骨収集活動、現地追悼式

### ペリリュー島

パラオ共和国に属する小さな島  
→第二次世界大戦中の日米激戦地の一つ

概要：

- ・面積13km<sup>2</sup> 最高標高50m
- ・年間平均気温27°C(高温多湿)
- ・雨季と乾季
- ・天然資源が豊富



### JYMA日本青年遺骨収集団

→全国各地の学生を中心に、戦没者遺骨収容・慰霊事業・平和啓発活動に取り組むボランティア団体（約70名の大学生と社会人団員で構成）

#### 慰霊

- ・遺骨収集
- ・慰霊碑保全
- ・慰霊巡拝

#### 伝承

- ・戦史勉強/ヒアリング
- ・若い世代の参加
- ・国際交流

### 【JYMA（日本青年遺骨収集団）への参加理由】

幼い頃から戦史について興味関心があり、国内外の資料館や施設を個人的に訪問していた。その中で、受動的だけでなく、能動的に慰霊活動に携われないかと情報収集をし、この団体に辿り着き入団。

### ○気づきと感想

80年もの年月を土の中で過ごしたご遺骨を収容することの難しさに直面した。参加した学生や私の思いは、全てのご遺骨を日本へ送還するために、より若い世代がこの取り組みに参画すること。しかし、同世代の多くは戦争という言葉自体に無関心であることが多く、今年が戦後何年であるかも把握していない。そのため、寮会での発表を通して、私たちの年齢でも参画できることやこのような団体が存在することを少しでも知ってもらい、自分事として捉えるきっかけになればと思う。

## 芝蘭結契

### ～寮生の活躍にみんなで拍手～

「芝蘭結契」とは、よい感化をもたらす才能・人徳に優れた人との付き合いのこと。スポーツに限らず音楽や絵画、文芸などの芸術文化、各種コンテスト、サークル活動などでの寮生の活躍を紹介し、みんなで称えあいたいと考えています。それが、寮生の気づきや励みにもなるからとの思いです。

## 首席のみの卒業演奏会に選抜

打楽器 齋藤 優多 君（東京音楽大学 音楽学部4年 山形北高卒）



▲開催紹介のチラシ

その専攻科の首席しか出演できない東京音楽大学卒業演奏会に選ばれました。

3月16日に名門のサントリーホール・ブルーローズで行われた「卒業演奏会」に出演し、ヒダノ修一作曲の「鎌倉-KAMAKURA-」を披露。和太鼓とドラム、シンバルなどを編成した打楽器で観客をうならせました。



▲和風の衣装でも観客を魅了した齋藤優多君（左は当日のドラムセット）



▲制服に身を包んだ鈴木 嶺君

## 滝野川消防署長優良団員表彰

鈴木 嶺 君（明治大学 経営学部3年 山形南高卒）

やまがた育英会には、いざという時に役立つと地元消防団に所属している学生が4名います。

令和8年1月25日、北区滝野川会館で行われた「令和8年滝野川消防団始め式」の席上、滝野川消防署長優良団員として表彰を受けました。

## 消防総監表彰

山田 篤志 業務執行理事・事務長

その学生たちを束ねる山田篤志事務長は同じ席上で東京消防庁消防総監から優良本部団員として表彰を受けています。

上級救命救急講習も受講し  
万一に備えている山田事務長▲



(公財) やまがた育英会  
寮 監 石 井 隆

ご意見・ご感想をお待ちしています

[t-ishii@yamagata-ikueikai.or.jp](mailto:t-ishii@yamagata-ikueikai.or.jp)